

2011 年 CAVOK ヨーロッパ航海 (Lisbon ~ Corsica)

6月12日(日) Almerimar 快晴

今日も目を覚ましてハッチから見る空は真っ青だ。朝食はいつも大体同じで、コーヒーもしくは紅茶、ジュースもしくは牛乳、トーストにバターとジャムそしてバレンシア特産のオレンジが定番になっている。

藤巻さんは、帰りのバスの手配を、私はマリーナの隣の海水浴場で海水浴を楽しむ。悦子は、船でゆっくり読書を楽しんでいた。

夕食は8時半に史さんが迎えに来てくれ、史さんの知合いのレストランに案内してもらおう。8時半といっても、まだまだ太陽が輝いていて明るい。オーダーは史さんをお願いして、できるだけ地元料理をお願いした。イベリコハム、柔らかく茹でたタコを使った地元料理、トマトのサラダ、バジルソースがけアンテチョークをオーダーしてくれたがとても味付けが良く美味しかった。夏のワインということでテイント・デ・ベラーノ(夏の赤ワイン)を食前酒でいただいたが、悦子は大変気に入ったようだ。白ワインの産地は忘れてがリヨ八の近くだそうで辛口で中々いけた。

6月13日 Almerimar 快晴

今日は藤巻さんがバルセロナに向かう日。史さんが10時に近くの町のバス停まで送ってくれた。藤巻さんはそこから14時間のバスの旅でバルセロナまで行く。彼が帰った後、洗濯、掃除等して海岸でひと泳ぎする。

夜10時から近くのバールでパーティーがあるので史さんに誘って頂く。2組のスペイン人夫婦と史さんの彼女のバキさん、その中に我々夫婦も参加させて頂く。史さんの誕生日とスペイン人のアントニオさんのアントニア祭を祝う会であった。バスクから来たご主人は元マグロ漁業船を持っていてマグロ漁をやっていたそうだ。何年前にリタイヤしてマグロ漁業船を売ってヨットを買ってここアルメリマールに置いてあるそうだ。バスク人の気風と元マグロ船の船長の面影があり魅力的な人だった。もう一組のアントニアオさんは、史さんと同じマリーナの同僚だった。

6月14日(火) Almerimar ~ San Jose 0900/1700 快晴東 3 ~ 4m/s 45nm 0900

史さんに舳いを解いてもらい出港。東の弱いヘッドウィンドの中、シェラネバタ山脈の残雪を後に機走する。

この辺りは冬のヨーロッパの野菜の台所で沢山のビニールハウスがある。昼前から良い風が吹き出したのでクローズで帆走する。徐々に風が強くなり東風10~12m/sになる。メイン3ポイント、ジブ1ポイントにする。今日の目的地 San Jose の少し手前の Cobo de Gata (ガタ岬) の陰で風を避けて早めにジブとメインをファールリングして機走にする。此処のガタ岬よりコスタ・ブランカになるが岬を越えると白い岩が見えてきた。

San Jose のマリーナは小さな漁船やモーターボートが多く係留しており田舎の落ち着いたマリーナの雰囲気だ。



一杯で係留できずアンカーリングした日本艇もあったとの情報を聞いていたがスタッフがすぐ来て係留場所を指定してくれ舫いを取ってくれた。一応、前日にメールで係留をお願いしてあったがホットする。

此处は海の透明度が良く底まで良く見える。あとから昨日アルメリマールで一緒だったイギリス艇が入ってきた。水がきれいなので手続(これが時間が大分掛かる、郷に入れば郷に従えでスペイン風にゆっくり待つ)と片付けが終ってから海水浴をして体を冷やす。こちらは6時でも海水浴をしている。久しぶりに潜ったがお魚が沢山いた。

6月15日(水) San Jose 快晴

美しい港サン・ホセで一日を過ごす。今日も快晴でアンダルシア地方を満喫する。午前中、村を散歩してマリナーナのうしろにある小高い丘に登る。頂上まで行けなかったが、マリナーナと村、そしてコバルトカラーの海が広がるのが見え絵葉書のようなであった。



村は、昔の村がリゾート地になった感じだ。海岸線に立並ぶ家々は漆喰の白い壁にハイビスカス、ブーゲンビリアアゼラニウムが色美しく家を飾り、家々の間から覗ける地中海が輝き素晴らしい光景を醸し出している。

お昼は海辺のレストランでアジのグリル、小イカのフライを頂くが鮮度が新しく美味しい。白ワインでゆっくり食べ午後は船でシエスタをする。こちらでは午後3時頃が一番日射しが強いのでシエスタのあと海水浴に行く。悦子は今年初めての海水浴になる。惜しげもなく胸を出している女性もいた。マリナーナの中も海水がきれいなので潜り、船底をチェックした。満月が東の空から上がってきたが暫らくして皆既月食が始まり見ることができた。

夕食は、コックピットでイベリコハム、アンデューブとトマトとアボカドのサラダ、ズッキーニと玉葱とマッシュルームのベーコン炒めで頂く。

6月16日(木) San Jose ~ Montiel 0850/1700 快晴南1 ~ 7m/s 46nm

今日は Aguilas を予定していたが変更して Juan Montiel にする。昨日 Aguilas のマリナーに予約の電話を入れたところ、確約できないので明朝再度電話が欲しいとのことであった。また、先に San Jose を出ていったイギリス艇からメールが入り Aguilas の1nm 手前に新しくできた Juan Montiel というマリナーが入りやすく設備も良いとの連絡をくれたので、これ幸いと変更する。

ただし、電子チャート、ガイドブックにも一切載ってなく、彼の情報とインターネットで探してGPSにプロットして出港する。

南の風で追手になり、風向きは良いのだが風が弱く機走する。帆走が気持ちいいのでチョット風が吹いてきたところでいきなりジェネカーを張り小1時間帆走したが再びペロンコ状態、あきらめ機走。13時過ぎより風が6 ~ 7m/s になったので再度ジェネカーを揚げ、風を入れながら快調に7KNで滑る。航路の途中まで岸寄りを走り、コスタ・ブランカの海岸線を楽しむ。

GPSにプロットした目的地付近に来たので探すが、海岸線に人口的に防波堤を作ったハーバーで直ぐ見つかった。まだ新しいせい、マリナー内はガラガラでスタッフが直ぐ係留場所を指示してくれ舫いを取ってくれた。

今日は日中とても暑い。こここのスタッフも暑いといっていた。暑い体を冷やしに隣の浜に泳ぎに行く。

此处は巨大資本が入っているようで、ホテルも隣接している。シャワーを浴びてからそのホテルのタベルナで食事する。

シーフード・パエリアを食べるが魚介類が新鮮で豊富に入って味付けも良く美味しかった。最近、悦子がお気に入りのテイント・デ・ベラーノを早速頼んだ。

暑い日中だったが陽が沈むと心地よい気温となる。今までも日中は暑くなり夕方より涼しくなる気候で凌ぎやすい。これから7, 8月になると暑さが大変厳しくなるかと思う。

6月17日(金) Montiel 快晴

一日ここでのんびりすることにする。此处 Juan Montiel は新しいハーバーで海岸に人工的に作ったマリナーだ。

ホテルも隣接していて強大な資本が投下されている感がする。コスタ・デル・ソル、コスタ・ブランカのマリナー、ホテルを見ているとスペインというよりヨーロッパの大リゾート地という感がする。近くの岸壁の上の San Juan 城に登る。1492年、レコンキスタでグラナダをイスラムから奪回したのち、イスラムの攻撃を防ぐために築城された要塞である。航海中も岸壁の上を見ているとローマ時代からの遺跡らしき要塞が所々見ることが出来る。

此处も海水浴場がマリナーの両サイドに広がっており整備されている。お昼は船上でカレーうどんを、汗かきながら、ビールを呑みながら食べる。シェスタのあと、海水浴場で泳ぐ、海水の温度も少し上ってきたようで長い間入っていてもさほど体が冷えなくなった。

町の魚屋さんに獲りたての新鮮なチピローネス(子イカ)と芝エビがあったので夕食用に買う。

夕食はチピローネスと野菜を入れたビーフン(これは悦子の友人の岡田さんから伝授されたもの)にレモンをたっぷり掛けて食べる。芝エビは茹でてチリソースを付けてジントニックの伴とする。



6月18日(土) Montiel ~ Cartagena 0905/1540 快晴 無風 ~ 南から 2 ~ 3 m/s 32nm

朝起きたら水平線に霧がかかっていて無風であった。昨日登った San Juan 城をポートサイドに見ながら機走で北東進する。土曜日のせいか釣りのモーターボートが沢山出ているので油断しないで見張りをする。

この辺りは海岸線が崖でその切れ間に港がある感じだ。2時間位機走していると南からの風が 2 ~ 3 m/s で吹いてくる。艇速は落ちるが今日は 30nm のレグで急ぐこともないのでジェネカーを揚げてセーリングを楽しむ。4 ~ 5 KN の速度で3時間位帆走できたが、また風がなくなり、機走にした。先行しているイギリス艇のアランさんから電話メールが来てカルタヘナのマリーナは西側より東側のほうが静かで良いので自分達も東側に移ったと教えてくれた。

東側はボンツーンに横づけで久しぶりの横づけとなった。ボンツーンに着ける際も隣に停泊している船がジブラルタルで違ったオランダ艇で、彼が舳を取りってくれた。暇な人間考えることが一緒なのか彼等も同じコースを辿っている。

着いてからメルカド(スーパーマーケット)に買い物に行ったが、途中ローマ劇場の遺跡のミュージアムがあり中に入る。

6000人収容できる劇場で保存状態も良く、又当時の演劇を3Dのビデオで再現したのが観れた。

ここカルタヘナは3000年の歴史がありフェニキア人が紀元前7世紀頃から住みだし紀元前3世紀にはカルタゴの植民地そして第二次ポエニ戦争で209年にローマ帝国コンスル、スキピオが攻略してローマの植民地になった所です。正に歴史の宝庫だ。これが遺跡として観れるので以前読んだ「ローマ人の物語」が生き生きしてきた。

夕食は、2回もお世話になったイギリス艇アラン夫妻を食事に誘う。アボガドとカニカマとレタスの巻寿司、前菜にイベリコハムとメロン、こちらで美味しかった黒トマトとアンチョビのサラダそしてズッキーニにオニオン、ベーコン、マッシュルームを詰めてチーズを掛けて蒸焼きにしたタパスで会食する。

彼は、シェル石油に勤めていて現在は半年だけ仕事しているそうだ。歳は私と同じか少し若いぐらいだ。住いは Weymouth で 2012年ロンドンオリンピックのヨット会場になる所だ。海が近いので子供達が遊びによく来るそうだ。彼等とも同じルートでこれからも所々で一緒すると思う。

6月19日(日) Cartagena 晴れ

朝食後、カタルヘナの観光に出かける。市内観光バスがあったのでこれに乗り、市内を一周してから13世紀に

建てられた城 Castillo Je La Concepcion に登る。上からは市内が一望でき、ローマ劇場の反対側には同じくローマ時代の円形劇場が修復の工事をしていた。他にも遺跡が見られ、至るところ遺跡だらけという感じだ。

マリーナの前には国立博物館があり、フェニキア時代からの海洋交通の歴史が出土品の展示から分かるようになっている。フェニキア時代の紀元前 10 世紀頃からの歴史で石でできたアンカーから時代ごとに出土品が展示してあった。

港に大きな客船が着岸していたのでカフェテリアで眺めながらビールを飲む。夕食はアンティープとイベリコハム、黒トマトとセロリのサラダ、ガーリックトマトとマシュルームの詰め物をリオハの赤ワインで頂く。



6月20日(月) Cartagena~Torrevieja 0835/1730 曇り東 4~5m/s 51nm

今日は 42nm 先のトレビエフを目指す朝方風がない。機走だけでは味がないので場合によっては手前の Mar Menor に目的地を変更するつもりで出港する。

2 時間程機走していたら東北東の風が 4 ~ 5m 吹いてきた。進路は変針する。Palos 岬迄真上りになるが帆走にして静かな海面をクローズホールドでタックを入れながら走る。Palos 岬から進路が北になるのでクローズドリッチで 6KN 強で気持ちよく走る。Palos 岬はひとつの変針点になるので船が集まってきた。

Cartagena で隣にいたオランダ艇とは並走する。

Torrevieja では 2 つのマリーナが隣接して、どちらか迷うが手前の Marina Internacional の空いているボンツーンに着け、Captarina に行き手続をして指定の場所に移動する。スタッフが親切に舫いを取ってくれる。若い人なつこい男で日本がきれいで好きだと話してくれた。

マリーナの前のレストランで火曜日と土曜日はフラメンコがあるので、明日はやっとならフラメンコを鑑賞することができそうだ。夕食は冷蔵庫の霜取りをしたいので残り物の整理をする。悦子が気に入ったズッキニーの詰め物、メロンとイベリコハム、プルポとムール貝の缶詰、チャーハンを静かなマリーナの中、コックピットで頂く。

6月21日(火) Torrevieja 快晴

トレビエフでゆっくりすることに。午前中は冷蔵庫の霜取りと整理、デッキの清掃をする。チークのデッキは昔の船で甲板員がヤシの実でデッキを清掃したというが擦れば擦るほど汚れが出てくる。チークが汚れを吸収するせいだと思う。気持ちよくきれいになる。

お昼は残りのイワシの缶詰とタコのオリブ漬けの缶詰と混ぜたスパゲッティを食べる。ここは大きなマリー

ナでヨット、モーターボートの出入りが多い。それを見ながら、ビールを飲みながら食事をして日除けの下で午睡をする。そよ風が心地良い。目を開けると眩しいばかりの青の空、海、そして行交うヨット、絵葉書の世界にいるようだ。午睡の後、マリナーに隣接している海水浴場に泳ぎに行く。沢山の海水浴客ですっかりここは夏だ。

船にはドジャー（コックピット前の波除け）とピニトップ（コックピットの日除け）はついているが西日になると日陰がなくなるので^{よしす}葦簀になるようなものを探していたが、町の店で葦簀になりそうな布を見つけたのでそれを加工してもらった。

明日行くアリカンテは今年の5月の連休にヨットを探しに行ったところなので懐かしい。ガイドブックでは夏場は混んでいるとのことなので、予約の電話を入れた。幸いのことに予定の3泊はOKだったが4日目は他の予約があるので駄目とのことだった。これからシーズンになるので停泊に苦労するかと思う。

夜は、昨日予約したレストランでフラメンコを観ながら食事をする。スペインに来て初めて観たフラメンコだが歯切れの良いリズムの踊りが心地良い。料理は、前回紹介した私のレシピになった小海老をニンニク、唐辛子をオリーブで茹でたガーリックブルボ、これはシンプルで美味しい、それとシーフードパエリアを食べる。前回のパエリアのほうが一枚上で、味付けが濃く塩味が効きすぎていた。



6月22日(水) Torrevieja~Alicante0840/1400 快晴 無風後南3m/s 25nm

無風のなか出港。トリマランを選んだフランス人のセイラーがトリマランを選んだ理由として夏の地中海は風がなく、モノハル艇では60%が機走になるから微風でも走れるトリマランにしたといていたが分からないでもない。出航して2時間程してから南から微風が吹き出して来たのでエンジンを止め、のんびり3KN前後の速度で帆走する。

なんといっても帆走は気持ちが良い。今日は25nmと短いので亀の足で楽しむ。そのうち風も安定してきたので観音開きにして4~5KN出る。アリカンテの港は大きなマリナーが2つあるが予約した東側の Marina de Alicanteに着ける。レセプションポンツーンに着けて所定の手続をするが、今晚と明日からのパースが変わる旨いわれる。6月なのに混んでいるらしい。係留後、街を歩いてみる。ここは昨年ヨット探して来たところで懐かしい。

丁度18~25日の間、闘牛を開催していたので早速明日の予約をする。ちょっと張ってSombraサイドの良い席を取る。初めて闘牛を見るので楽しみだ。ここは丁度お祭で屋台が一杯出ているのでそこで焼いていたリブステーキを買ってラタテューユと共に夕食とする。リブステーキは焼き過ぎで失敗の買い物だった。